

9-1

職員研修

通所介護計画

ミニワークショップ手法による楽しい情報収集

その人らしさを、通所介護計画書にもりこむために

通所介護・三鷹市高齢者センター けやき苑

発表者：主任 服部 将志	共同研究者：所長 都崎 博子
所在地：三鷹市深大寺 2-29-13	共同研究者：主任 坂田 治美
TEL：0422-34-5440	E-mail：keyakien@kosaien.or.jp
FAX：0422-34-6538	URL：http://www.kosaien.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	三鷹市高齢者センターけやき苑は、市の指定管理制度に基づき社会福祉法人東京弘済園が運営しています。一般型通所介護定員 45 名、認知症対応型通所介護定員 12 名、その他居宅介護支援および地域包括支援センターも運営しています。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

- ・大規模な施設で、活動プログラムも複数あるため、職員が、自分の担当利用者と接する時間が限られていて、知りうる情報量が少ない。
- ・業務の関係で、十分な時間をとってのカラクリを開催することが困難である。
- ・通所介護計画書が、現場の中で十分に機能せず、通所介護計画が形骸化する傾向にある。

〈具体的な取り組み〉

上記の課題から、①通所介護計画作成にむけ、利用者に関する情報を交換し、共通認識をもつこと、②「その人らしさ」を支援する通所介護に、やりがいを感じること③担当職員が主体的に通所介護計画書を書き、通所介護計画書を支援サイクルの一つとして活用することを目的に、ミニワークショップ手法による研修を企画した。苑内から、東京都社会福祉協議会センター部会のデイサービス支援効果研究委員会とチームケア推進企画活動委員会に 2 名が参加しており、そのスキルを活用することにした。研修企画は、生活相談員 1 名とセンター部会委員の 2 名で行った。

- ・ある利用者に関して、3 つ程度の質問を用意。質問ごとに色わけしたカードに参加職員全員が、記入。
- ・カードを整理し、模造紙に添付し、図式化していくことで支援構造やその方らしさについてわかるようにして発表する。

〈活動の成果と評価〉

- ・回数を重ねるうちに、質問や意見が活発にできるようになった。
- ・全員の書いたカードが図式化されることで、多面的な角度から検討でき、全職員が支援に参加する意識を高めることができた。
- ・参加した感想としては、今まで知らなかったご利用者の姿を知り、驚いたという声や、他の職員の支援への考えを聞くことができ、新しい発想が得られた、援助の質が深まったという声が聞かれている。

〈今後の課題〉

- ・現状では、非常勤職員は、時間の関係で参加していないが、カードだけでも参加できるような体制を整えたい。
- ・その後の計画書への活用や支援報告がなされる体制ができるとうい。
- ・進行役のファシリテーター及びカードを整理、図式化する担当職員が限られているので、他の職員でも担えるように工夫したい。

〈参考資料など〉

- ・東社協 平成 20 年度 ワークショップ研修報告書「3 年後に、はなを咲かせよう!しごとをたがやすコミュニケーション」
- ・東社協
高齢者デイサービスにおける支援効果と支援技術

【メモ欄】